

過去および現ゼミ生の論文タイトル

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/41249

過去および現ゼミ生の論文タイトル

<2001 年卒業生（第 1 期生）>

【卒業論文】

加藤 千佳 「『会う』VS『逢う』 一漢字から受けるイメージと使い分け一」

…金沢大学経済学会『学生論集』（2001, pp.37-48）所収

佐渡 智美 「現実と非現実の性差一小説から見えるもの一」

…金沢大学経済学会『学生論集』（2001, pp.23-35）所収

上記論文はつぎのサイトからダウンロード可能：

<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/handle/2297/23512>

<2002 年卒業生（第 2 期生）>

【卒業論文】

佐藤 千馨 「日常言語の可能性について」

茅根 滋 「経済的観点から見る日米ヒット曲の歌詞構造とその法則性」

…金沢大学経済学会『学生論集』（2002, pp.83-96）所収

森 大介 「上手な皮肉の使い方一小泉保の三つの分類から一」

山田 均 「街にあふれるコトバについての考察」

山本 明奈 「学校における呼称」

山本 幸恵 「雑誌の中に見る性差」

…金沢大学経済学会『学生論集』（2002, pp.97-111）所収

渡辺 敬太 「現代の若者における『やさしい』とは」

上記のうち『学生論集』掲載論文はつぎのサイトでダウンロード可能：

<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/handle/2297/23511>

< 2005 年卒業生（第 3 期生） >

【共同論文】

綱田 百合香

山崎 瞳

ユリア・ケールマン（研究留学生）

} 『生茶』は生か？

…金沢大学経済学会『学生論集』（2004, pp.1-9）所収

上記論文はつぎのサイトからダウンロード可能：

<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/handle/2297/23510>

【卒業論文】

綱田 百合香 「TV ショッピングにおける説得方法の日米比較」

…金沢大学経済学会『学生論集』（2005, pp.89-101）所収

山崎 瞳

「非言語の壁—美容室でのコミュニケーションから—」

…金沢大学経済学会『学生論集』（2005, pp.15-30）所収

上記論文はつぎのサイトからダウンロード可能：

<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/handle/2297/23509>

< 2006 年卒業生（第 4 期生） >

【共同論文】

磨矢 順子（代表）「しつけ言葉から探る『理想的』人間像」

（平成 16 年度学長奨励費研究）

…金沢大学経済学部社会言語学演習『論文集』第 1 巻（2006, pp.1-26）所収

…『平成 16 年度学長奨励費研究結果論文集』（2006, pp.35-40）所収

【卒業論文】

磨矢 順子 「しつけ言葉から探る日本人とドイツ人の行動基準」

…金沢大学経済学部社会言語学演習『論文集』第 1 巻（2006, pp.27-64）所収

< 2007 年卒業生（第 5 期生） >

【共同論文】

小長谷 春奈・佐藤 まりか・田中 千尋・堀田 真利

「ステッカーから見る『物言わぬ日本人』」

…金沢大学経済学部社会言語学演習『論文集』第 1 巻（2006, pp.65-80）所収

- …『平成 17 年度学長奨励費研究結果論文集』第 2 号(2006, pp.44-51)所収
 …金沢大学経済学会『学生論集』(2006, pp.1-10)所収

上記論文はつぎのサイトからダウンロード可能：

<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/handle/2297/23508>

【卒業論文】

- 小長谷 春奈 「女性の話し言葉に対する社会の圧力の変化」
 …金沢大学経済学部社会言語学演習『論文集』第 2 卷(2007, pp.31-46)所収
- 田中 千尋 「『私、ホントに結婚できるのかしら？』 —『読者』は表紙コピーと会話する—」
 …金沢大学経済学部社会言語学演習『論文集』第 2 卷(2007, pp.47-63)所収
- 堀田 真莉 「『信頼を裏切り申し訳ありません』 —謝罪会見記事からみる職業と人格—」
 …金沢大学経済学部社会言語学演習『論文集』第 2 卷(2007, pp.65-84)所収

< 2009 年卒業生（第 6 期生） >

【個別研究】

- 鍵主 智美 「お母さんわたしと太郎君なぼく —日本語教科書における男女表現について—」
 …金沢大学経済学部社会言語学演習『論文集』第 3 卷(2008, pp.1-17)
- 鍵主 智美 「『やさしさ』の意味変化 —辞書記述に基づく語義分析—」
 …金沢大学経済学部社会言語学演習『論文集』第 3 卷(2008, pp.19-35)

【卒業論文】

- 鍵主 智美 「国語教科書と日本語教科書の比較 —ジェンダーの視点から—」
 …金沢大学経済学部社会言語学演習『論文集』第 4 卷(2009, pp.1-24)所収

<2014 年卒業生（第 7 期生）>

【共同研究】

中村 明修 「金沢市中心街の言語景観 ——観光地・商業地・市役所の調査——」（横田 哲郎・別司 大典との共著）
…金沢大学経済学類社会言語学演習『論文集』第 8 巻(2013, pp. 1-25)所収

【卒業論文】

中村 明修 「雑誌記事の見出しから見る対象読者による言語使用の違い」
…金沢大学経済学類社会言語学演習『論文集』第 9 巻(2014, pp. 15-39)所収

<2015 年卒業生（第 7 期生）>

【共同研究】

横田 哲郎 「金沢市中心街の言語景観 ——観光地・商業地・市役所の調査——」（中村 明修・別司 大典との共著）
…金沢大学経済学類社会言語学演習『論文集』第 8 巻(2013, pp. 1-25)所収

【卒業論文】

横田 哲郎 「大学の言語景観——金沢大学・北陸大学・金沢星稜大学からの調査・比較——」

<2015 年卒業生（第 8 期生）>

【共同研究】

川崎 明美・川田 諒・佐原 貴寛・田村 隆太・朱 穎
「お菓子里みるネーミングの法則」
…金沢大学経済学類社会言語学演習『論文集』第 9 巻(2014, pp. 1-14)所収

【卒業論文】

川崎 明美 「ネコキャラクタの役割語『ニャ』にみるキャラ語尾の使用状況」

川田 諒 「ソーシャルゲームに対する行動経済学的アプローチ——人はなぜソーシャルゲームに課金するのか——」

佐原 貴寛 「種類ごとにみる菓子のネーミングの法則」

田村 隆太 「Magic: The Gathering にみる言語価値」

<2009 年修了生（修士課程修了第 1 期生）>

【修士論文】

- 尹 秀美 「夫婦間の呼びかけ表現の日韓比較 ―コンテキスト化の合図という観点から―」
…金沢大学経済学部社会言語学演習『論文集』第 4 巻(2009, pp. 25-106)

<2014 年修了生（修士課程修了第 2 期生）>

【修士論文】

- 王 一帆 「言語景観における漢字表記 ―台北・香港・上海市・北京市の調査から―」

*

【金沢大学経済学部社会言語学演習発行『論文集』】

『論文集』第 1 巻（2006） 目 次

磨矢 順子

しつけ言葉から探る『理想的』人間像…………… 1

しつけ言葉から探る日本人とドイツ人の行動基準…………… 27

小長谷 春奈・佐藤 まりか・田中 千尋・堀田 真莉

ステッカーから見る「物言わぬ日本人」…………… 65

『論文集』第 2 巻（2007） 目 次

小長谷 春奈・佐藤 まりか・田中 千尋・堀田 真莉

諸外国との比較から見る「物言わぬ日本人」…………… 1

小長谷 春奈

女性の話し言葉に対する社会の圧力の変化…………… 31

田中 千尋

「私、ホントに結婚できるのかしら？」

―「読者」は表紙コピーと会話する―…………… 47

堀田 真莉

「信頼を裏切り申し訳ありません」

一謝罪会見記事からみる職業と人格一……………	65
------------------------	----

尹 秀美 (ユン・スウミ)

日韓の夫婦間の呼びかけ表現

一先行研究の問題点と今後の展望一……………	85
-----------------------	----

『論文集』第3巻 (2008) 目次

鍵主 智美

お母さんわたしと太郎君なぼく

一日本語教科書における男女の表現について一……………	1
----------------------------	---

鍵主 智美

「やさしさ」の意味変化

一辞書記述に基づく語義分析一……………	19
---------------------	----

尹 秀美 (ユン・スウミ)

呼びかけ表現の使用パタンの日韓比較

一インターネットサイト上のメッセージを例に一……………	37
-----------------------------	----

윤 수 미 (尹 秀美)

한・일 부부간 직접호칭 표현

[日韓の夫婦間の呼びかけ表現]

一선행연구의 문제점과 앞으로의 전망一

[一先行研究の問題点と今後の展望一]……………	49
-------------------------	----

西嶋 義憲

コミュニケーション行動制御慣用表現の日独対照研究のために

一視点の違い一……………	63
--------------	----

『論文集』第4巻 (2009) 目次

鍵主 智美

国語教科書と日本語教科書の比較

一ジェンダーの視点から一……………	1
-------------------	---

尹 秀美

夫婦間の呼びかけ表現の日韓比較

—コンテキスト化の合図という観点から—	25
---------------------	----

『論文集』第5巻(2010) 目次

尹 秀美

話し手責任と聞き手責任

—発話理解における話し手の貢献度の日韓比較— 1

尹 秀美

日本人と韓国人の発話理解の責任主体

—テレビドラマの会話分析に基づいて— 21

Sumi YOON (尹 秀美)

Can fillers function as contextualization cues in a Japanese conversation?

—Based on comparison of address terms

in Japanese and Korean— 39

『論文集』第6巻(2011) 目次

尹 秀美

謝罪表現における発話理解の責任主体の日韓比較

—英語学習の影響— 1

楊 一林

目上への「ほめ」行動について 19

<資料>

西嶋 義憲

「お見通し」発言とその翻訳

—資料集— 33

第7巻よりタイトルおよび ISSN 変更

【金沢大学人間社会学域経済学類社会言語学演習編『論文集』】

『論文集』第7巻(2012) 目次

孫 羽

曖昧性の視点から日本語の特徴を見る ——曖昧さの下位分類を踏まえて——	1
--	---

王 一帆 「こんな名前なら買う！」 ——商品の命名に関する日中比較のための予備的考察——	27
--	----

楊 一林 中国人話者の目上への「ほめ」行動について ——中国人大学生を調査対象として——	39
--	----

『論文集』第8巻（2013） 目次

中村 明修・横田 哲郎・別司 大典 金沢市中心街の言語景観 ——観光地・商業地・市役所の調査——	1
--	---

王 一帆 言語景観における慣用表現 ——台北・香港・上海・北京の比較調査——	27
--	----

王 一帆 言語景観としての店名表示 ——台北におけるスナック・クラブの調査——	45
---	----

<資料>

西嶋 義憲 交通標識の日独比較のために	57
------------------------	----

『論文集』第9巻（2014） 目次

川崎 明美・川田 諒・佐原 貴寛・田村 隆太・朱 穎 お菓子にみるネーミングの法則	1
--	---

中村 明修 雑誌記事の見出しから見る対象読者による言語使用の違い	15
-------------------------------------	----

<研究ノート>

朱 穎	
-----	--

キラキラネームから見た日本人の命名文化の変化…………… 41

上記『論文集』各巻所収の論文はつぎのサイトからダウンロード可能：

<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/handle/2297/17070>

【他誌掲載論文など】

尹 秀美：「呼びかけ表現を好む韓国人、呼びかけ表現を避ける日本人 ―コンテキスト化の合図という観点から―」神田外語大学韓国語学会『韓国語学年報』4, 2008, pp. 21-31.

Sumi YOON: “Comparison between Korean and Japanese address terms as contextualization cues in husband-wife's dialogue.” *Inquiries into Korean Linguistics III*, 2008, pp. 377-387.

Sumi YOON: “Can fillers function as contextualization cues in a Japanese conversation? – Based on comparison of address terms in Japanese and Korean –.” Shizuoka: Paper presented at the 10th Annual International Conference of the Japanese Society for Language Sciences (JSLS), 2008.

Sumi YOON: “A Contrastive Study of Metacommunicative Functions of Address Terms between Husband and Wife in Korea and Japan.” *Current Issues in Unity and Diversity of Languages*, 2008, pp. 3819-3831.

Sumi YOON: “Speaker-responsibility and hearer-responsibility: A comparison of speaker's contribution to understanding in a conversation in Japanese and Korean.” Kumamoto: Paper presented at the 15th Annual Conference of International Association for Intercultural Communication Studies (IAICS), 2009.

尹 秀美：「話し手責任と聞き手責任―発話理解における話し手の貢献度の日韓比較―」金沢大学大学院人間社会環境研究科「プロジェクト研究を通じた自立的研究者養成」平成 21 年（2009 年）度プロジェクト研究成果報告, 2010, pp. 119-124.

Sumi YOON: “English as Cultural Resource: Influence on Ways of Speaking in Japanese and Korean” 金沢大学国際文化資源学研究センター『文化資源学研究』1 号, 2011, pp. 103-108.

上記論文はつぎのサイトからダウンロード可能：

<http://crs.w3.kanazawa-u.ac.jp/other/publication.html>

尹 秀美：「発話理解における話し手責任の日韓比較—謝罪場面での発話量および表現形式を中心に—」神田外語大学韓国語学会『韓国語学年報』7号 2011, pp. 1-17.

上記論文はつぎのサイトからダウンロード可能：

http://ci.nii.ac.jp/vol_issue/nels/AA12161738/ISS0000475623_ja.html

Sumi YOON: “Is Korean Really a Listener-Responsible Language like Japanese?: A Contrastive Analysis of Discourse in Apologies between Korean and Japanese” *Acta Linguistica Asiatica*. 1(3), 2011, pp. 73-94.

上記論文はつぎのサイトからダウンロード可能：

<http://revije.ff.uni-lj.si/ala/article/view/35>

Sumi YOON: “Who is Responsible for Understanding in a Conversation?: A Contrastive Pragmatic Analysis of Utterances in Japanese and Korean” *Indian Journal of Applied Linguistics (IJAL)*, 38, 2012, pp. 123-142.

尹 秀美：「韓国人夫婦はお互いをどう呼び合うか？—夫が妻を呼ぶ時—」金沢大学国際文化資源学研究センター『文化資源学研究』第4号, 2012, pp. 103-106.

楊 一林：「中国社会における「ほめ」文化の変容—文化資源学の観点から—」金沢大学国際文化資源学研究センター『文化資源学研究』第4号, 2012, pp. 120-126.

王 一帆：「言語景観における漢字使用 —台北・香港・上海市・北京市の調査から」金沢大学国際文化資源学研究センター『文化資源学研究』第12号, 2013, pp. 73-182.

上記論文はつぎのサイトからダウンロード可能：

<http://crs.w3.kanazawa-u.ac.jp/other/publication.html>

＊

【図書】

尹 秀美： *A Contrastive Study of Responsibility for Understanding Utterances between Japanese and Korean*. 東京：ひつじ書房, 2014.

金沢大学社会言語学演習紀要『論文集』

執筆要領（簡略版）

2015 年度版

執筆申込・原稿提出

執筆申込：2015 年 12 月 20 日締め切り

原稿提出：2016 年 2 月 28 日締め切り

刊行：2016 年 3 月末

日本語の場合

原稿：Word ファイル

用紙：A4 横書き

文字：明朝、Times New Roman

ポイント：12 ポイント

余白：上 35mm、左右下各 30mm

字数：36 文字

行数：36 行

注：脚注（10 ポイント）

文献：末尾にまとめる。原則として APA 方式

1 ページ目（タイトル・ページ）

タイトル：14 ポイント、センタリング、太字

所属と名前：12 ポイント、右寄せ、太字

概要：500 文字以内

キーワード：5 語以内

2 ページ目（目次ページ）

目次：アラビア数字、階層化

1. ○○

1.1. ○○

1.1.1. ○○

3 ページ目以降（本文）

段落：書き出しは 1 字下げる

論文集 第10巻
2014年度社会言語学演習研究論集
ISSN 2188-6350
2015年3月23日 発行

編集 金沢大学人間社会学域経済学類
社会言語学演習（代表 西嶋 義憲）
発行 金沢大学経済学類
〒920-1192 金沢市角間町
Tel.: 076-264-5428
Fax.: 076-264-5444
E-mail: yotchan@staff.kanazawa-u.ac.jp
印刷 田中昭文堂印刷株式会社